



6月定例会 一般質問

障害福祉・国保・小児救急・助産施設

6月20日、節木三千代県議は、①障害児者の「暮らしの場」の確保、②国保料の引き下げ、③小児救急医療体制を守ること、④大津市の助産施設の確保など切実な願いを届けて、三日月大造知事に迫りました。

障害児者の「暮らしの場」の確保を



158人も県外で暮らさざるをえない

ふしき県議は、強度行動障害など重度障害のある人たち 158 人が他府県の施設で暮らさざるを得ない問題を取り上げ、滋賀での「暮らしの場」の確保は喫緊の課題。グループホームの整備の遅れを指摘し、県独自の支援を求めました。



一般質問するふしき県議

また、ショートステイ事業所において、入所まちのため、年単位の長期のショートステイ、いわゆる「ロングショート」の利用者が増加している現状を取り上げ、遅れている基盤整備をすすめるよう求めました

かつての福祉先進県だった。今は…

ふしき県議は、「滋賀県は、糸賀一雄氏をはじめ先駆者たちの貢献で、近江学園の開設、重症心身障害児を受け止めるびわこ学園設立し、全国に先駆けた障害者福祉が展開され、滋賀県に障害者の発達が保障されると移り住んでこられました。しかし、今、障害者が158人北海道、長崎県など他府県の施設に依存しているのが滋賀の現状であります。障害福祉施策が長い間前提としてきた家族介護を脱却し、必要な支援を受けながら、障害者が住み慣れた地域で安心してらせるよう『暮らしの場』が求められています」と知事に迫りました。知事は、「改めて咀嚼しながら、今後の方向性についてよく検討してまいりたい」と答弁しました。

足りないショートステイ！

自閉症の息子（20歳）をもつ

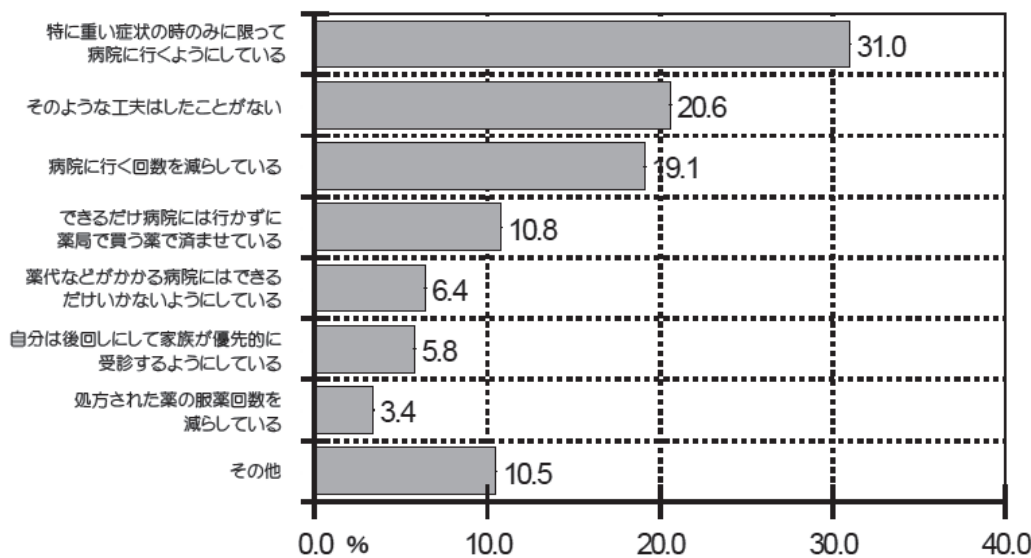
シングルマザーのAさんは・・・

「夕方6時に会社から帰ってから、3時間ドライブしなければ息子は落ち着かない。9時に晩御飯を食べて寝かし、それから家事をこなす毎日。息子は睡眠が浅いので、3時には起きてしまう。睡眠時間は3時間から4時間が続いている」と。Aさんは、「子どもといっしょに暮らしていくには、1ヶ月に1回か2回、ショートステイを利用し、ささえてほしい」と話しますが、あきがなく利用できません。

**症状が重くなってから病院に行く
命が脅かされる事態に。高すぎる国保料の引き下げを**

**医療費の窓口(自己)負担や国保料(税)の支払いの負担で
お金がかかるため、どのような工夫をしたか (複数回答)**

【滋賀民医連 国保アンケート538人の声】



ふしき県議は、三日月知事に対して、国民健康保険の「都道府県化」による保険料値上げに反対し、「全国知事会が求めている公費1兆円の投入で大幅な引き下げを求めるべきだ」と迫りました。

さらに、滋賀民医連の国保患者アンケートの結果を示し、症状が重くなってから病院に行くなどこれが国保加入者の実態であるとし、「国保料の引き上げは、保険料が払えず滞納する世帯が増える、医者に行けず命をおとす人も生まれる」と指摘。県として、一般会計から繰り入れて、保険料を引き下げて、県民の命と暮らしを守る役割を果たすよう求めました。

その他の質問

- 心配の声続出。小児医療救急体制を後退させる再編は認められない
- 大津市民病院が入院助産休止に。大津市の助産施設を確保し、母子の命を守れ

生活相談会をおこなっています。

毎月 第1.3月曜日 午後3～5時まで
場所：ふしきみちよ事務所 無料・秘密厳守

2019年6月25日 発行：ふしきみちよ事務所
大津市末広町4の4 Tel・Fax 077-523-0334
メール mfushiki@beach.ocn.ne.jp ふしきみちよ公式ホームページ <http://fusiki.huu.cc/>

ふしき みちよ

検索